

1. 職名・氏名 教授 亀田 勝見

2. 学位 学位 文学博士、専門分野 中国思想史、  
授与機関 京都大学文学部、授与年月 1999年3月

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 中国語 I・II (各1単位、毎年開講)	1年生 2017～2019年度
② 内容・ねらい (自由記述) 初修外国語として中国語の入門を身につけさせる。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) <p>多人数相手ではおろそかになりがちな発音能力の向上と、期末テストまで復習をする意志の低い学生に復習の習慣づけることを目的として、以下の三点で工夫。</p> <p>毎回の授業における席を固定し、隣の相手をパートナーとして固定。発音練習や発音テストなどにおいて固定されたペアによって発音の向上に努めさせる。</p> <p>使用する教科書に対応した Web ページを自作。クリック一つで音声を確かめることのできる教材として、授業時間の内外を問わず利用できるようにした。</p> <p>毎年授業を LL 教室で行う。②の教材を授業中必要な時にいつでも利用できる環境を提供。併せて F レックス LMS を活用し、学生との密なる連絡や電子教材の提供の便に供した。</p> <p>少なくとも各課の学習が終わるごとに小テストを実施。</p> <p>基礎中の基礎を学び終えた後期の後半に、本学に留学している中国・台湾からの留学生との交流授業を実施した (2016・2017年度)。ネイティブ相手に中国語による簡単なゲームを実施して打ち解けた後、自由に語らってもらった形式をとった。2018・2019年度は留学生の授業の都合が合わず少数の参加しか望めなかったため実施していない。</p> <p>2018年度後期には台湾からの留学生1名に授業を何度も参観してもらった。続く2019年度からは SA 制度が導入されたため、中国語ネイティブの学生に授業補佐をしてもらった。折に触れて SA に話をふって授業に関連したエピソードなどを披露してもらったり、学生達の発音指導や会話練習のお手伝いをしてもらったりした。</p>	
① 導入ゼミ (1単位、毎年開講)	1年生 2017～2019年度
② 内容・ねらい 教員の専門である東洋の分野を題材として、大学に入学したばかりの一年生に、大学での資料収集・作成や発表などの基本ルールを身につけさせる。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 <p>授業の前半では、毎回導入教育関連のスキル取得目的で、グループワークを行わせる。各自が行った作業をグループごとに討議させ、その結果を他グループに発表させることで、より豊かな経験へとつなげる。</p> <p>後半は、各グループごとに一つのテーマを決めて発表を行うための一連の作業を行う。全体で統一した大テーマがあるため、グループ間のやり取りも必要で、中間発表などで進捗状況確認や不備などを確認し、5～6週を費やした上で最終発表にもっていく。</p> <p>上記作業以外にもテーマを与えて小発表もさせるが、その都度聞き手の学生はそれに対して質問をぶつけ、意見交換を行わせる。加えて、時間終了後に F レックス LMS 上で聞き手の学生からの評価や質問を受け、発表者に返す。</p> <p>これらの課題を課すことにより双方向のやり取りを実現して大学ならではの学習形式を理解させる。</p>	
① 東洋思想 (2単位)	1年生 2018・2019年度

② 内容・ねらい

古代中国の思想展開を、思想史という形で年代順に解説することで、時代ごとの思想継承や変化を理解させる。ただし2018年度からは小テーマを四つ設け、序盤の数回で中国史・中国思想史の概説を行った後、テーマごとの思想史を3・4回単位で講義する方針に変更した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

理解の助けとして、プレゼンテーションソフトによる画面と書き込み用プリントを配っている。講義に連動したプレゼン画面を見ながらプリントの空欄を埋めたりメモをさせたりして、講義内容への興味を保つよう心掛けている。また、授業の最後にはその日の内容を踏まえて学生個々に意見や感想を書かせる。

内容の性質上、文献資料中心の授業となるので、内容に少しでも関連する写真や図、ビデオなど、極力視聴覚に訴える教材をプレゼンテーション画面に組み込むよう努めている。

① 学術ゼミ（前期および後期、各2単位、毎年開講）2017～2019年度

② 内容・ねらい

唐以前の漢文古典資料に訓点を施した教材を利用して、訳注を作成することで、漢文読解能力の向上を目指す。同時に、各教材を読み込むことにより、古代中国の歴史・思想・文化を学ぶ。

2015年度より海外実地研修を導入。文献上だけでなく実際の体験で中国の学問・宗教・文化を理解させる。2018年度は受講者数不足により研修を実施しなかった。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

訳注作成に対する要求レベルは高く設定していない。一方で、授業中に訳案を出席者で討論して結論を導いていくことに重点を置く。

2017年度までの海外実地研修では、授業で扱う道教関連の漢文資料を読んだ上で、台湾の道教や民間信仰の廟と、そこで行われる祭祀儀礼の参観を実施した。事前に台湾の歴史や風土、台湾での信仰の特徴などを学習して臨んだ。2019年度は中国上海・蘇州・杭州を訪問し、各地の歴史文化遺産を見学した。事後には取材した内容を報告書にまとめて製本し、記録として残した。

① 研究の世界（2単位、毎年開講）2017～2019年度

② 内容・ねらい

学術教養センターに属す教員が毎週入れ替わりで登壇し、各々の専門分野に関する研究内容を学生に紹介する授業。亀田は2018・2019年度の講義を担当。2017年度と2018年度はコーディネイターも務めた。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

研究内容をそのまま話しても、学生にとっては意義を見出しがたく、退屈でもあるので、テーマとして研究してきた「運命と人為」について、いくつかの論文で取り上げた内容を平明な内容にして講義した。その際、プリントとともにプレゼンテーションソフトで作成したスライドで図式などを表示し、学生が受身にならないよう、プリント内の空白を埋めてもらう形で授業に参加してもらう形をとった。

2017・2018年度のコーディネイター役としては、学生の興味を引きつけるため、講義担当者に質問を挟んだり、あるいは担当者によってはインタビュー的やりとりをまじえた。

① 比較文化論（2単位、毎年開講）2018・2019年度

② 内容・ねらい

学術教養センターに属す教員が毎週入れ替わりで登壇し、各々の専門分野に関連する国の文化を紹介する授業。亀田は台湾をテーマにして講義した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

台湾と日本との交流を基軸として、導入ではネット上の動画を紹介することで台湾への関心を喚起した。引き続き台湾の地理・歴史・社会・文化を語り、最後に再び日台間の交流へ話を戻して講義全体の起承転結を完成させた。途中で台湾からの留学生に話を振ったりして話の現実味を出すことにも心掛けた。

(2)非常勤講師担当科目

① 中国語Ⅰ・Ⅱ（各1単位 毎年開講） 敦賀市立看護大学 2017年度

② 内容・ねらい

初修外国語として、中国語の入門を身につけさせる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

多人数相手ではおろそかになりがちな発音能力の向上と、期末テストまで復習をする意志の低い学生に復習の習慣づけることを目的として、以下の三点で工夫。

毎回の授業における席を固定し、隣の相手をパートナーとして固定。発音練習や発音テストなどにおいて固定されたペアによって発音の向上に努めさせる。

使用する教科書に対応した Web ページを自作。クリッカー一つで音声を確認めることのできる教材として、授業時間の内外を問わず利用できるようにした。

毎年授業を CALL 教室で行う。②の教材を授業中必要な時にいつでも利用できる環境を提供。少なくとも各課の学習が終わるごとに小テストを実施。

④ 本学における業務との関連性

本学においても中国語の授業を行っている。他校における語学教育のあり方は本学のそれを考える上で大変参考になる。また、本学と異なる地方の学生に教えることにより、幅広い視点をもって本学の学生に語学を教えることが可能となっている。

2018年度以降は非常勤の仕事を行っていない。

(3)その他の教育活動

LCAP（1単位、8月第2週～第4週） 2017～2019年度

中国および台湾の提携校受け入れ先とした、短期語学留学プログラム。

中国語を1年以上学んだ学生に対して、実地での学習と言語活用経験の機会を与え、語学力のさらなる向上を目指す。2012年度の上海以来、応募人数の不足により成立していなかった LCAP だが、2015年度より2週間の学習プログラムとなって、当初5名、最終的には3名の学生が台湾の国立高雄第一科技大学に赴いた。2017・2018年度は定員いっぱいの5名派遣を実現させた。2019年度は最終的に3名の派遣となった。

期間中のほとんどは受け入れ先の教員による指導。亀田はそのうち後半の一週間ほど同行視察し、学生達の学習・生活状況を調査・確認した。

2017・2018年度は「中国語Ⅲ」を履修することにより、派遣までの事前学習としている。

2018年度の場合、永平寺キャンパスの4名については予定どおり中国語中級クラスで事前学習を行ったが、小浜キャンパスの学生が1名いたので、小浜に出向いて指導した。

2019年度からは、「中国語Ⅲ」を事前学習の場とする方針を改め、亀田が受講者3人の事前学習を担当した。前年度春休みから4月にかけては個々の学生の都合の良い時間を探し、それぞれにネット通話を利用して発音指導を行った。4月からは3名が月に1、2度一同に会して昨年度の初級クラスのテキストにある語彙や基礎文法を徹底復習する形で指導を行った。

留学生との交流イベント 2017～2019年度

前期の端午節（旧暦5/5）周辺の時期に、中国・台湾留学生を迎え、端午節に食べる風習のある中華ちまきを作成・実食するイベントを実施した。本学の学生として、自分の導入ゼミの学生や別ゼミの学生、あるいは World Café のスタッフをしている学生などを呼び、総勢30名前後の参加者となる年もあった。イベントの途中では中国の伝統行事と食文化の関わりについて、留学生に発表してもらった。

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 論文
② 著書
③ 学会報告等
④ その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など (学会名) 日本道教学会評議員 2014年度～
学会・分科会の開催運営 (担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所)
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加 (参加研究会名、調査活動名(期間)) 『王勃集』読書会(宇佐美文理代表)、2017～2019年度
②その活動による成果 訳注作成を主目的としており、一定の範囲を終了させた段階で成果報告を出す予定 年度内に1回程度、訳注案作成を担当した。
①その他の研究活動参加 (参加研究会名、調査活動名(期間)) 「道教思想研究会」読書会(金志玆代表)、2017～2019年度
②その活動による成果 訳注作成を主目的としており、一定の範囲を終了させた段階で成果報告を出す予定 年度内に1回程度、訳注案作成を担当した。
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
なし。研究を進める上で外部資金まで必要としないため、応募していない。
(5)特許出願

## 5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会
② 国・地方公共団体等の調査受託等 (それぞれの名称、業務内容、活動期間)
① (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加 兵庫県地域通貨 NPO「丹波まちづくりプロジェクト」HP 作成担当、2017 年度
② (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動 (企業名、活動内容、活動期間)
③ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 (事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間) なし
④ その他 (名称、活動場所、活動期間)
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座「ケンダイ・ワールドツアー」(大学内の World Café にて。2017～2019 年度)  2017 年度は全 6 回のうち、6/20 (火) を担当。題目は「台湾を彩る人々と信仰」 また、12/19 (火) の北村教授担当回では司会役を担当。 2018 年度は 11/20 (火)、芝原光枝先生担当回「ラトビア — 雪と短歌で結ばれて」の司会役を担当。 2019 年度は 6/18 (火)、村田幸子先生担当回「日独文化クロスロード」および 11/12 (火)、前田ひろみ先生担当回「モスクワ歴史散歩」の司会役を担当。
② 社会人・高校生向けの講座 (タイトル名、開催場所、開催日時)
③ その他 (名称、活動場所、活動期間)
(3)その他 (個人の資格で参加している社会活動等)
(活動内容、主たる活動場所、活動期間) ・ 本学のサークルとして「fpu 太極拳サークル」を主催。2017 年度～2019 年度 学内外の学生・教員・留学生および一般人を広く招き、太極拳を指導。週 2 回の活動を行う。 留学生交流会や、学術交流協定校との交流会などで演武を披露。

## 6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長） （職名、期間）
(2)委員会・チーム活動 ・入試本部副本部長（副）、2019年度
(3)学内行事への参加 ・中国浙江省からの訪問団対応、2018年度 11/27（火）、浙江財経大学・浙江工商大学からの学生・教員団が来訪。 これに対してLCAP経験学生を動員して歓迎の挨拶などを担当した。
(4)その他、自発的活動など ・研究委員会（部局内委員会）、2017年度 ・海外研究WG（部局内活動）、2017年度～2019年度 ・学教センター内研究会、2017年度 研究委員会（部局内委員会）の委員長として、年3回ほど研究会を開催。 ・カリキュラム委員会（部局内委員会）、2018年度 ・中国浙江工商大学訪問団への帯同、2018年度 3/4（火）～3/6（木）、新たな学術交流協定提携校となる浙江工商大学へ赴き事務的な事前交渉を行うための一行に帯同した。